

プロバスケットを盛り上げよう！ ～認知向上・集客をマーケティング

1 目的・概要

日本でのスポーツ界はここ数年で、サッカーのJリーグ開幕やW杯への連続出場、プロ野球での地方チームの躍進、そしてバスケットボールでは統一リーグの発足など目覚ましい発展を遂げてきました。そして2020年に東京オリンピック・パラリンピックを控えた日本でのスポーツ産業は今後もますますの発展を期待できるものでしょう。

本科目ではそのようなスポーツ産業を題材にし、プロバスケットチームである京都の「京都ハンナリーズ」と奈良の「バンビシャス奈良」を対象に『プロスポーツを観戦する』というサービスを売るマーケティング活動を行いました。そして生徒が京都と奈良の2グループに分かれ、視察、分析、企画、提案そして施策の実行、反省を繰り返し、それぞれのチームと協働し活動を進めました。

身近でありながら産業として発展途上であるスポーツを題材とすることで様々な能力をつけながら、マーケティング活動について身をもって体験、理解することを目的としています。

またスポーツ産業の最前線である人たちと協働することで、実社会で働く際に役に立つ経験を積むことを目指します。



Annual Schedule

2016年	4月～5月	企業訪問、現状把握
	6月	街頭アンケート調査、反省
	7月	各チームの現状分析
	8月～9月	企画案作成、各チームとの練り合わせ
	10月	施策準備
	11月～12月	企画実施
2017年	1月	企画反省、報告会準備

2 成果達成度



私たちは春学期、活動を進めていくための土台となるチーム分析を行いました。より深い分析を行うために、試合視察、企業訪問、社長とのお話から考察を固め、その後の街頭アンケートやSWOT分析を加えたもので自分たちなりの活動の方向性、集客の対象を決めました。

そしてその後本格的に京都と奈良のグループに分かれ、それぞれで活動を進めていきました。

京都チームは春学期の分析の結果からチームのブランディングに注目しました。まず「京都ハンナリーズ」の由来である「はんなり」に注目し、その言葉の意味がチームに反映されていない部分に注目しました。そして「古さと新しさの融合」と、自分たちで新しい定義の仮説を立て、手に取りやすく、コンセプトである「はんなり」が十分に盛り込める集客媒体であり、同時にブランディングの提案が可能である広報誌の作成を行いました。内容としては、着物で観戦という新しい活動、定義に基づくはんなりスポット紹介などを盛り込みました。そして作成した広報誌は大学内や、自分たちのアルバイト先、取材をしたお寺など幅広く配布活動を行いました。

奈良チームではチームのマスコットキャラクターである「シカッチェ」に注目し、彼が元々持っている容姿と性格を活かした新しいプロモーションを提案、実行しました。具体的には飴を配るという趣味を活かし、私たちがデザインした試合日程や割引要素を含んだオリジナルの飴の箱を作成し、イベントや大学で配る企画を提案、実行しました。施策の際には「シカッチェの友達としてのファン」をコンセプトに奈良在住の女子をターゲットとした施策を中心に行いました。結果として試合会場で私たちが配布した割引券が回収でき、新聞での掲載、SNSでの拡散がなされました。他にも企業での「シカッチェ」への注目の高まりなどが見られたと考えられます。



3 プロジェクトを通じて

私たちは各チーム3人と5人の少人数で一年活動を行いました。少人数であるからこそそれぞれが自分の役割をきちんと果たし、意見を積極的に出し合うことの大切さを心から感じました。またこの科目で私たちが一番苦労した点は企画を提案から実行に移す段階です。ただ意見を通すことを考えるのではなく、企画の主な対象、コンセプト、目的、予測される成果、企業側、観客側への影響を深く



分析したうえで企画しなければ必ず実行には繋がらないことを実際に体験しました。しかしそこに時間をかけて考えて、企画が実行に移ったときは自分たちの企画が形になり達成感を味わうことができました。この1年間でチームとの協働から得た様々な実社会における体験、企画段階における発想・提案・計画力、マーケティング活動の知識の習得、体験など様々な点でそれぞれが成長できたと考えております。



編集後記

このプロジェクト科目で得た、実践的なマーケティング体験、社会との関わり、そして業界の方たちと協働で行った活動は、通常の講義型授業では味わえないものでとても貴重な経験となりました。施策を考える際や、実行に移すまでの過程でたくさんつまづきましたが、一年間一生懸命取り組んだことは私自身の一つの成長であり、自信となりました。

そしてこの活動中にたくさんの方のご協力をいただきました。この経験をこれからの活動にそれぞれ活かしていきます。メンバー一同、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

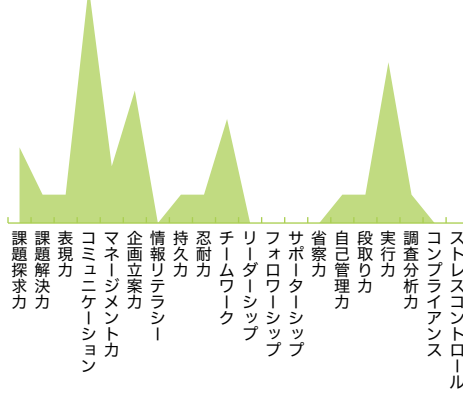
プロジェクトメンバー

新井 崇史(経済3) 芦田 了介(経済3) 藤本 道人(経済3) 杉原 健太(経済3) 高橋 拓(商3)
植田 桜子(政策3) 黒川 麻美(グローバル地域文化2) 岡 美空(グローバル地域文化2) 高橋 真子(SA)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

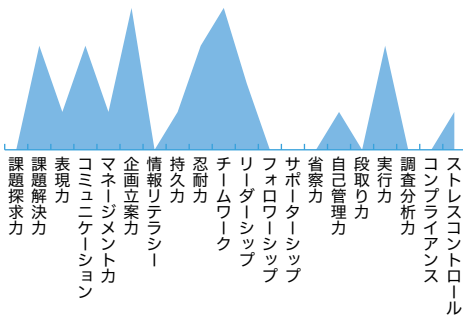
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

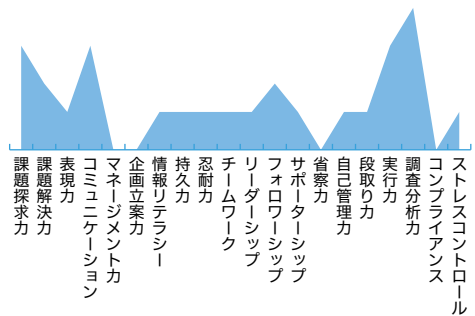


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

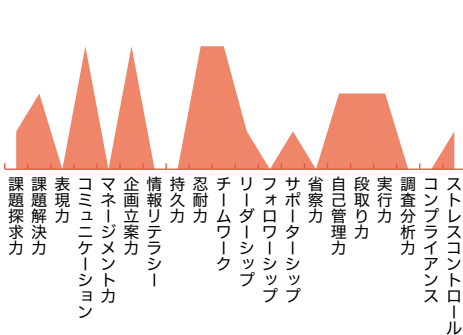


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

